

新春 座談会

「ウポポイ元年」を振り返って



2020年7月12日、白老町ポロト湖畔に、アイヌ文化の復興と発展を使命としたウポポイ（民族共生象徴空間）が華やかに開業しました。先住民アイヌの歴史と文化を主題とした日本初・日本最北の国立博物館「国立アイヌ民族博物館」を核に、「国立民族共生公園」「慰霊施設」を擁するナショナルセンターです。この町史に刻まれるエポックの意義を考え、アイヌ文化の理解促進、まちの発展への期待を共有する意味を込め、関係者に「ウポポイ元年」を振り返ってもらう座談会を開催しました。「誕生まで」「船出・開業5カ月」「これから」について、町行政のリーダー、アイヌ政策の推進に注力する道議、地元アイヌ協会で文化伝承の実践者、まち場を代表する町内会連合会、若い世代がまちづくりで集う青年会議所の5人の出席者にお話を伺いました。その思いを紹介します。

誕生まで

戸田町長

準備は着々。開業に、ほっ

町としては、ウポポイを訪れた人たちに満足していただけるよう国や道、JR北海道の協力もいた



戸田白老町長

体制の整備を図ってまいりました。ハード面では国道36号の4車線化、特急の停車、白老駅に併設した自由通路、駅北の観光インフォメーションセンターの整備など。またソフト面ではアイヌ文化の伝統食材やアイヌ文様を活用した商品開発、「おもてなしガイド」の人材育成、あらゆる機会を捉えたPR活動などに取り組んでまいりました。2度にわたる延期の後、当時の菅官房長官らを迎えた政府主催の開業記念式典が催され、翌7月12日に開業したときは正直、安心しました。先住民であるアイヌの方々長い歴史の中で、幾多の苦難に打ち勝ち、今日の白老町の基礎を築き上げた経緯を踏まえ町

【出席者の皆さん】

- 戸田安彦氏 白老町長
- 神戸典臣氏 道議会議員・アイヌ政策推進道議会議員連盟会長
- 岡田育子氏 白老アイヌ協会副理事長
- 福澤孝宏氏 白老町町内会連合会副会長
- 笠井雄太郎氏 白老青年会議所専務理事

では、アイヌ民族の尊厳の保持と、歴史・文化を次世代に継承していくことにより「多文化共生のまちづくり」を進めてきたことから、白老の地にウポポイが開業したことは、まちの活性化にとっても誠に喜ばしいものと受け止めています。

神戸道議

始まりは野村氏の話への驚き

ウポポイの開業までには長い歴史があり、時折々に多くの人たちの協力と、町民の方々の理解があり、今日に至っているものと考えられています。私が道議になったのは昭和58年。直後の野村義一氏（故人。当時の北海道ウタリ協会理事長）から、国のウタリ対策という

※座談会はコロナ対策を徹底して行いましたが、写真撮影時だけマスクを外していただきました。